

大阪教育大学大学院  
教育学研究科  
2027



OSAKA  
KYOIKU  
UNIVERSITY

# 新しい時代の 教育改革を リードできる 人材養成へ

## I N D E X

- 1 教育学研究科主任挨拶
- 2 3つのポリシー
- 3 概要・カリキュラム
- 4 卒業認定・学位授与の方針
- 5 心理・教育支援コース
- 6 国際協働教育コース
- 7 教育ファシリテーションコース
- 8 国際協働教育コース
- 9 教育課程編成・実施の方針
- 10 入学者受入れの方針
- 11 高度教育支援開発専攻
- 12 心理・教育支援コース
- 13 国際協働教育コース
- 14 教育ファシリテーションコース
- 15 卒業認定・学位授与の方針
- 16 入学者受入れの方針
- 17 説明会／学費・奨学金  
大学院教育学研究科(修士課程)  
修士生の進路



教育学研究科主任  
堀 一繁

大阪教育大学は、150年以上にわたる歴史と伝統を有し、我が国有数の規模を誇る教育系大学として、長年にわたり日本の教育の発展を支えてまいりました。その歩みは、優れた教員の養成にとどまらず、教育に関わる多様な専門的人材を育成し、学校、地域、社会の諸課題に真摯に向き合うことを通じて築かれてきたものです。

今日、社会は大きな転換期を迎えています。ICT化やAIの急速な進展、グローバル化の深化、さらには人生100年時代の到来に象徴されるように、社会構造や人々の価値観、学びの在り方は大きく変容しています。こうした変化の中で、地域社会や学校現場には、従来には見られなかった多様かつ複雑な課題と支援ニーズが顕在化しており、教育分野には、これまで以上に新しい役割と責任が求められています。

とりわけ学校現場においては、子ども一人ひとりの学びの多様化、特別支援教育の充実、探究的・協働的な学びの推進、教育DXへの対応、家庭・地域・関係機関との連携、そして教職員の働き方改革など、複合的課題に的確に応えていくことが必要です。そのためには、学校現場を支え、地域・社会と教育をつなぐ幅広い人材の育成が不可欠であると考えています。

このような時代の要請に応えるべく、本学では令和3年4月に大学院教育学研究科を大幅に改組いたしました。新たな教育学研究科は、これまで培ってきた高度な専門性と研究能力の育成を基盤としつつ、地域・社会及び学校への支援において求められる、教育・学習支援の課題分析力と実践力を養成することを重視しております。その中核として設置した高度教育支援開発専攻には、教育領域に強い公認心理師の養成を目指す心理・教育支援コース、留学生を受け入れ、グローバルなフィールドで他者と協働できる人材を育成する国際協働教育コース、そして主として社会人を対象に、多様な専門性を結び付けながら教育的アプローチを実施・運営する力を養う教育ファシリテーションコースを置いております。

本研究科は、教育の理論と実践を往還しながら、新たな時代の教育を構想し、その実現に主体的に貢献し得る人材を育成する場です。教育に深い関心と志を有し、学校、地域、社会の未来に貢献したいと願う皆さんが、本研究科で学びを深め、それぞれの専門性と可能性をさらに大きく開花させられることを、心より期待しております。

## 令和9年度 大学院教育学研究科の 3つのポリシー

### 卒業認定・学位授与の方針 ■ディプロマ・ポリシー

大学院教育学研究科は、教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え、自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせることで学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探求し、教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」、教育課題解決の企画力、特定の分野における深化した専門的知識・技能、人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力を有する者で、学位論文審査及び最終試験に合格した者に修士(教育学)の学位を授与します。

### 教育課程編成・実施の方針 ■カリキュラム・ポリシー

大学院教育学研究科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」、「教育課題解決の企画力」、「特定の分野における深化した各領域の知識・技能」及び「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を統合的に身に付けることを目的として、次のように体系的に編成し、実施するものとします。

- 1 「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を有する専門的人材として備えるべき基盤的素養を修得することを目的として「専攻共通科目」を設定します。
- 2 自らの思考の軸となる専門分野の「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を修得し、これを基盤に「教育課題解決の企画力」までつなげることができる力量を育成することを目的として「コース共通科目」を設定します。
- 3 「特定の分野における深化した各領域の知識・技能」を育成するために、自らの思考の軸となる専門領域の知識・技能を基盤として、理論と実践を往還して分析省察するための技能を修得することを目的とし「コース・領域専門科目」を設定します。

### 入学者受入れの方針 ■アドミッション・ポリシー

#### 1. 求める学生像

卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。

#### 高度教育支援開発専攻

- ・学校や地域が抱える教育課題の解決に強い関心を有している人
- ・特定分野において専門性や優れた実務・実践経験を有し、これを活用して教育・学習支援に参画する意欲を有している人
- ・教育現場の課題について実践的研究を行うことで、学校改革に向けて先導的・中核的な役割を担う意欲を有している人

#### 心理・教育支援コース

- 1 学士課程において公認心理師国家試験受験資格に必要なすべての科目を修めており、修士課程において必要とされる科目を修める強い意志のある人
- 2 心理支援に関する高度な知識とスキルを身につけ、社会に貢献しようとする強い意欲を有している人
- 3 スクールカウンセラーや教育相談員等の専門職の立場から教育を支援する意欲を有している人

#### 国際協働教育コース

- 1 学士課程で学んだ自身の専門研究分野に関して基礎的な知識と強い関心を有している人
- 2 各国・地域の日本型教育システムに関する実践研究に取り組み、その成果を教育現場に反映させ、教育課題の解決の一翼を担う意欲を有している人
- 3 日本語教育支援に関する実践研究に取り組み、教育を通して多文化共生社会の実現と持続に貢献しようとする意欲を有している人
- 4 日本型教育システムや日本語教育支援についての研究成果を国際的に発信するためのコミュニケーション能力・語学力を有している人

#### 教育ファシリテーションコース

- 1 学校や地域が抱える教育課題の解決に強い関心を有している人
- 2 以下のいずれかの専門性や優れた実務・実践経験を有し、これを活用して新時代の学校改革や教育現場の課題解決の一翼を担う意欲を有している人
  - ・AI・ICT等の先端技術、または、教育行政等に関する領域
  - ・社会教育や福祉、または、美術や音楽などの芸術活動に関する領域
  - ・医療や保健、スポーツなどの健康・安全に関する領域

4 「教育課題解決の企画力」を基盤とし、「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を育成することを目的として、心理・教育支援コース及び国際協働教育コースにおいては「フィールド研究科目」、教育ファシリテーションコースにおいては「プロジェクトベース科目」を設定します。

5 1～4を通じて、自らの教育・学習支援実践における課題を設定し、専攻共通科目、コース共通科目、コース・領域専門科目、フィールド研究科目、プロジェクトベース科目での学びと関連させながら学術的に考察し、修士論文に結実させることを目的として「課題研究科目」を設定します。

- 1～5の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。
- 1～4の成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。
- 5の成績評価については、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

#### 2. 入学者選抜の基本方針

大学院教育学研究科が求める学生を受け入れるために、次の大学院入学選抜を実施します。

#### 一般選抜

本選抜では、外国語科目と専門科目によって、大学院で学ぶために必要な外国語能力、読解力、思考力、文章表現力、専門的知識を有しているかを評価します(教育ファシリテーションコースでは、専門科目によって、大学院で学ぶために必要な読解力、思考力、文章表現力、専門的知識・技能を有しているかを評価します)。また、口述試験、研究計画書及び成績証明書によって、専門分野の研究を遂行するために必要な専門的知識、大学院で学ぶ動機、意欲、主体性を有しているかを評価します。なお、研究計画書は、自らが身に付けるべき資質・能力を明確にし、教育全体の課題と関連付けた具体的な研究計画を特に評価します。

#### 外国人留学生等選抜

国際協働教育コースでは、外国人留学生を広く受け入れるために、外国人留学生等選抜を実施します。本選抜では、専門科目によって、大学院で学ぶために必要な日本語能力、読解力、思考力、文章表現力、専門的知識を有しているかを評価します。また、口述試験、研究計画書及び成績証明書によって、専門分野の研究を遂行するために必要な日本語能力、専門的知識、大学院で学ぶ動機、意欲、主体性を有しているかを評価します。なお、研究計画書は、自らが身に付けるべき資質・能力を明確にし、教育全体の課題と関連付けた具体的な研究計画を特に評価します。

#### 3. 入学前に学習しておくことが期待される内容

- |        |   |
|--------|---|
| 学部卒業生等 | <ul style="list-style-type: none"><li>・大学卒業レベルと同等の基礎学力</li><li>・専門分野に関する基本的な知識・技能</li></ul> |
|--------|---|

- |      |   |
|------|---|
| 社会人等 | <ul style="list-style-type: none"><li>・教育現場や地域が抱える教育課題への強い関心と理解</li><li>・専門分野に関する知識・技能・実践経験</li></ul> |
|------|---|

- |         |  |
|---------|--|
| 外国人留学生等 | <ul style="list-style-type: none"><li>・大学卒業レベルと同等の基礎学力</li><li>・母国における教育課題の理解</li><li>・専門分野を学ぶための日本語能力</li></ul> |
|---------|--|

# 概要・カリキュラム

本研究科は、全ての院生が教育・学習支援の実践力と課題分析力を身に付けられるよう教育課程を編成し、教員以外の立場から教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成します。

専攻	コース	領域	対象者 主な修学キャンパス	募集人員(目安)
高度教育支援開発専攻	心理・教育支援コース		学部卒学生等 柏原キャンパス (昼間開講)	10人
	国際協働教育コース	日本型教育システム開発領域	外国人留学生等及び 学部卒学生等	20人
		日本語教育支援高度化領域	柏原キャンパス (昼間開講)	
	教育ファシリテーションコース	教育イノベーション開発領域	社会人等及び 学部卒学生等	20人
		地域教育・芸術支援人材高度化領域	天王寺キャンパス (夜間・土曜開講)	
		健康・安全教育高度化領域		

- 1時限 ■ 8:50 ~ 10:20
- 2時限 ■ 10:35 ~ 12:05
- 3時限 ■ 12:55 ~ 14:25
- 4時限 ■ 14:40 ~ 16:10

- 5時限 ■ 16:25 ~ 17:55
- 6時限 ■ 18:00 ~ 19:30
- 7時限 ■ 19:40 ~ 21:10

授業の時間帯は、柏原キャンパス開講コースは1～5時限、天王寺キャンパス開講コースは6～7時限が原則です。(ただし、土曜日開講授業・集中講義についてはこの限りではありません。)

## ■ 特色

### 1 「教育・学習支援の実践力」と「課題分析力」の基盤的な力を身に付けます。

超スマート社会の到来に伴い、教育を取り巻く環境も大きく変わる中、ICT、教育データ等の先端技術や教育・学習の実践的手法の両方を基盤的な力として身に付けるための授業を必修科目として開講します。

### 2 特定の領域での高度な専門性を身に付けます。

特定の領域における高度な専門的知識・技能を身に付けることに加え、これを活用して教育・学習支援を深く探究するための実践力・研究力を修得するための学びを展開します。

### 3 実践的な教育研究手法を身に付けます。

大学院修了後も様々な課題に直面した際に、主体的に分析、考察、解決ができるよう、調査・分析手法、論文作成手法など、汎用的な研究能力を身に付けます。

### 4 多職種協働による課題探究型研究・教育を展開します。

教育現場、企業、行政、地域から、多様なバックグラウンドを有する社会人が一堂に集まり、多職種協働による教育現場の課題解決に資する研究・教育を展開するため、「フィールド研究科目・プロジェクトベース科目」を開講します。

## ■ 学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー)

	心理・教育支援コース
<b>DP1</b> 教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において、保健医療・福祉・教育などの様々な場面において、顕在化した、あるいは潜在的な心理学的支援の必要な課題を発見し、その本質を理解できる。</li> <li>それらの課題について、自らの専門分野と関連づけて高度に分析できる能力を有している。</li> </ul>
<b>DP2</b> 教育課題解決の企画力	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な専門的知識・能力を活用し、課題解決に向けた心理学的手法、道筋を企画し、積極的に行動することができる。</li> </ul>
<b>DP3</b> 特定の分野における深化した専門的知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属するコースの高度な専門的知識・能力を身に付けている。</li> <li>それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し、理論面・実践面から心理学的課題の解決に向けた深い省察ができる。</li> </ul>
<b>DP4</b> 人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学的支援の必要な課題に対し、異なる領域・分野の人々や、社会人・学校教員・地域社会のメンバーなどと協働して問題解決ができる。</li> <li>学校や社会の様々な組織をコーディネートし、分野・組織の異なる人々の協働をリードできる。</li> </ul>

## ■ 修了要件単位数

**修了要件** 大学院研究科に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格しなければなりません。 ※公認心理師受験資格の取得に必要な単位数は43単位です。

心理・教育支援コース	
専攻共通科目	6
コース専門科目	15
自由選択科目	2
フィールド研究科目	3
課題研究科目	4
計	30

国際協働教育コース	
専攻共通科目	6
コース共通科目	4
コース・領域専門科目	14
自由選択科目	2
フィールド研究科目	4
課題研究科目	4
計	34

教育ファシリテーションコース	
専攻共通科目	6
コース共通科目	4
コース・領域専門科目	10
自由選択科目	2
プロジェクトベース科目	4
課題研究科目	4
計	30

本専攻におけるカリキュラムは次の科目から構成されています。

専攻共通科目	教育現場の高度化を担うために必要となる基盤的な力を身に付けるため、専攻共通の必修科目として設けています。
コース共通科目	各コースにおいて共通に開設された科目を、必修科目・選択必修科目として履修します。
コース・領域専門科目	特定の領域での高度な専門性に加え、これを活用して教育・学習支援を深く探究できる知識や技能を身に付けるため、選択必修科目・選択科目として履修します。
自由選択科目	選択するコース・領域の専門科目のうち修了要件として設定の単位数を超えて修得した単位及び他コース開設科目の単位を修得した場合に、自由選択科目の単位となります。
フィールド研究科目	現場での実習を積み重ね、直面する課題研究を理解し解決できる実践力を身に付ける科目として履修します。
プロジェクトベース科目	多様なバックグラウンドを有する人材が一堂に集まり、カンファレンス、グループワーク等を通じて、実際の教育現場に即した課題探究型の学びを展開します。また、これらの学びの成果を教育現場への実践につなげることを目的としています。
課題研究科目	上記科目群における学びと関連させながら学術的に考察し、修士論文としてまとめることを目的としています。

**取得できる学位** 修士(教育学) ※本課程修了により、専修免許状を取得することはできません。

国際協働教育コース	教育ファシリテーションコース
<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において、学校教育及び日本語教育を取り巻く様々な場面において、顕在化した、あるいは潜在的な理系分野や日本語教育支援分野の教育課題を発見し、その本質を理解できる。</li> <li>それらの教育課題について、自らの専門分野と関連づけて高度に分析できる能力を有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において、学校及びそれを取り巻く様々な場面において、顕在化した、あるいは潜在的な教育課題を発見し、その本質を理解できる。</li> <li>それらの教育課題について、生涯教育学の知見と自らの専門分野や実践経験を関連づけて高度に分析できる能力を有している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な専門的知識・能力を活用し、理系分野や日本語教育支援分野の教育課題解決に向けた手法、道筋を企画し、積極的に行動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育的アプローチについて理解を深め、自らの高度な専門的知識・能力を活用して、教育課題解決に向けた事業や手法を開発し、積極的に展開していくことができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>所属するコース・領域の高度な専門的知識・能力を身に付けている。</li> <li>それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し、理論面・実践面から理系分野や日本語教育支援分野の教育課題の解決に向けた深い省察ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属するコース・領域の高度な専門的知識・能力を身に付けている。</li> <li>それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し、理論面・実践面から教育課題の解決に向けた深い省察ができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>理系分野や日本語教育支援分野の教育課題に対し、異なる国や文化、他の領域・分野の人々や、社会人・学校教員などと協働して問題解決ができる。</li> <li>各国・地域、学校や社会の様々な組織をコーディネートし、分野・組織の異なる人々の協働をリードできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の様々な教育課題の解決に向けて、学校教員や関係する組織との間でチームを組織化することができる。</li> <li>学校や地域の様々な組織との協働チームの運営をコーディネートし、課題解決に向けての協働事業をリードできる。</li> </ul>

# 心理・教育支援コース

## 養成する人材像

高度な心理学の知識と支援・研究スキルを身につけ、社会に貢献する人材を養成します。

教育大学としての強みをいかし、教育分野における心理支援に精通した人材を養成します。

柏原キャンパス  
昼間開講

募集人員(目安)：10人

コース代表教員からのメッセージ



石橋 正浩 教授

2017年の公認心理師法施行を受け、教員養成だけでなく教員を支援する人材の養成も本学の使命であるとの考えのもと、学部では2019年度入学生から、そして大学院では2021年度入学生から、公認心理師国家資格取得に対応するカリキュラムを提供しています。

学校現場では教員の業務過多に加えて、対応する問題も多様かつ深刻なものが増えてきました。教員、児童生徒、保護者、各種専門職、そして地域社会と連携して問題の解決にあたろうという「チームとしての学校」の考え方は教育現場での支援の基本となっています。保健医療や福祉などのさまざまな分野においても同様です。多職種連携の重要性を理解し、心理学の体系的な知識を基盤とした支援を実践することのできる専門家を養成したいと考えています。

研究と実践の双方に意欲と熱意があり、なおかつ冷静な観察眼と分析力のある方をお待ちしています。ともに頑張らしましょう。

- 特徴**
- 国家資格である公認心理師※1の取得を支援します。
  - 教育大学としての特徴をいかし、発達や教育に関する研究と、それらに基づいた支援を実践的に学ぶことを通して、発達の多様性を理解しさまざまな形での協働を実践することのできる心理支援の専門家を育成します。
- ※1 所定の単位を取得して本学大学院を修了することで、受験資格を得ることができます。ただし、大学院に入学する前に4年制大学において法令で定められた科目をすべて履修していることが条件となります。条件を満たすかどうかは、ご自身の所属又は卒業大学にご確認ください。

- 主な開講科目**
- 心理支援に関する理論と実践
  - 心理実践実習
  - 公認心理師と教師の協働的援助

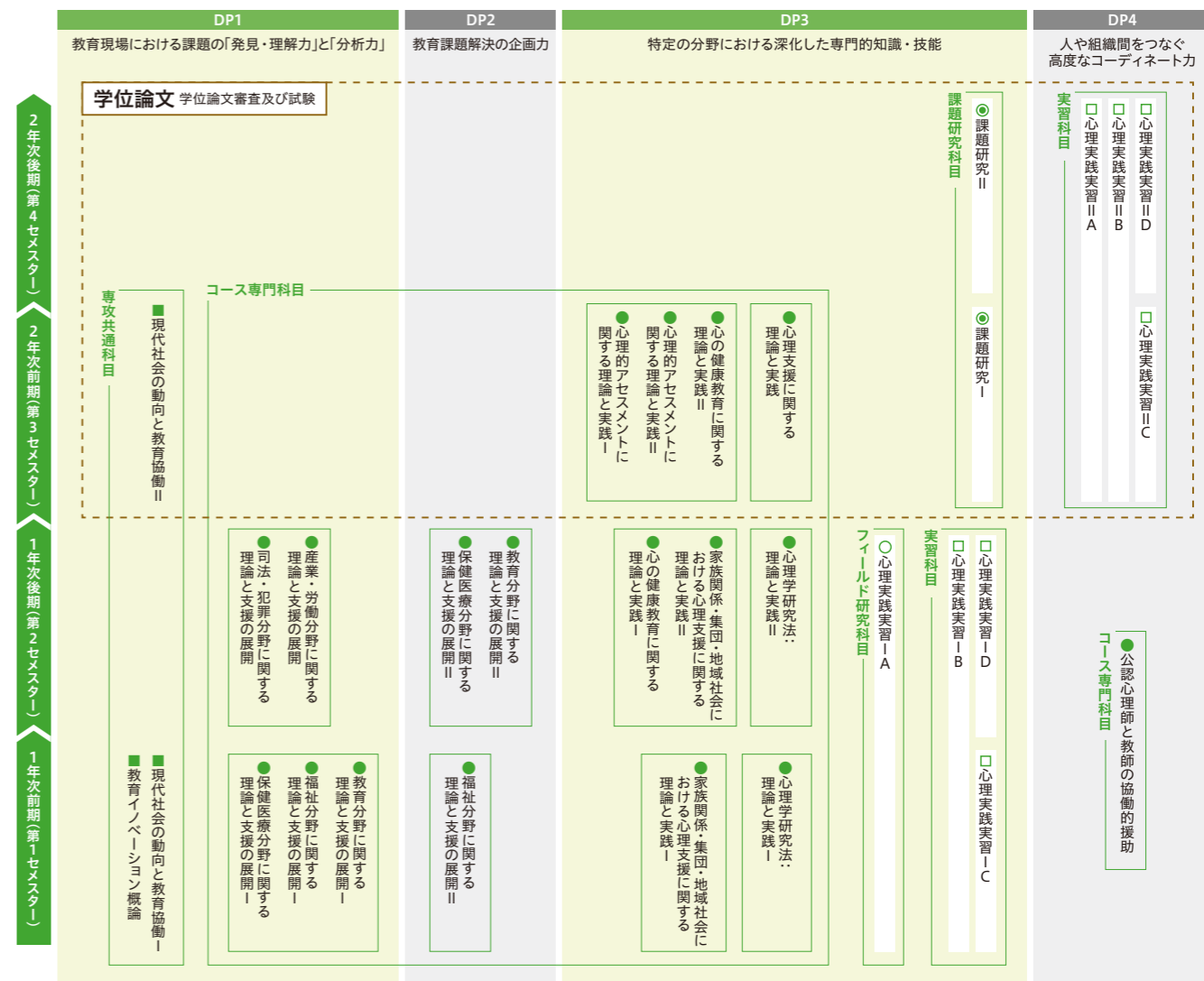
- 修了後の想定職出先**
- スクールカウンセラーなど教育機関に勤務する心理職、子どもや家族に関わる施設等に勤務する心理職、その他公認心理師として医療・福祉・産業・司法の分野における心理支援に携わる専門職など

- 取得できる資格**
- **【国家資格】公認心理師(受験資格)**  
心理学の専門的知識と技術をもって、心理に関する支援を必要とする人の心理状態の観察と分析、その心理に関する相談、助言、指導その他の援助を行うことなどを業とする専門職です。
  - **【認定資格】臨床発達心理士※2**  
臨床発達心理士とは、発達の臨床に携わる幅広い専門家に開かれた資格です。人の発達・成長・加齢に寄り添い、必要とされる援助を提供します。発達心理学をベースにして「発達の観点」を持つところが特徴です。
  - **【認定資格】学校心理士※2**  
学校生活におけるさまざまな問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対し、「学校心理学」の専門的知識と技能をもって心理教育的援助サービスを行うことのできる方に対して、一般社団法人学校心理士認定運営機構が認定する資格です。

※2 公認心理師資格を取得し、所定の講習会を受講することで申請資格が得られます。



## 令和8年度入学者用カリキュラムツリー | 学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー)



※令和9年度入学者については変更される場合があります。

■ 専攻共通科目 ● コース専門科目 □ 実習科目 ○ フィールド研究科目 ● 課題研究科目

## 専任教員・研究分野 (令和8年5月1日現在) ※令和9年3月末までに退職予定

- 石橋 正浩 ■ 臨床心理学、発達人間学      寺坂 明子 ■ 臨床心理学、学校心理学  
岩切 昌宏 ■ 精神神経学 ※      山口 正寛 ■ 臨床心理学、発達心理学



## 心理・教育支援コース



学部卒業生  
古河 桃名  
2年次

### 入学を決めたきっかけ

他大学の心理学部を卒業後、児童生徒が悩みを一人で抱え込まず相談できるように支えたいと考え、学校でのサポートの在り方や心の健康教育に関する研究に取り組むべく本学への進学を決めました。学内外で心の健康教育や学生向けの居場所作りに関わる活動に携わる機会が多いことも本学への進学を決めた理由の一つです。

### 入試対策

入試対策では毎日の積み重ねを大切にしました。英語は論文要旨の読解と単語帳の対策を繰り返し、専門科目は教育大学ならではの発達心理学や教育分野に関するキーワードを重点的に勉強しました。面接対策では志望理由に加え、卒業論文の内容と修士論文の計画、卒業後の進路を具体的に説明できるように練習しました。

### 入学して良かったこと

自分がやりたいと思ったことを自ら開拓できる環境に入学できたことを良かったと感じております。私は学生生活を支える活動にも関心があり、附属図書館・修学支援ルーム・ICT教育支援ルームで学生支援に携わっております。今年度はこのような支援の場の認識を高める合同新歓スタンブラリーも企画・実施いたしました。

### 入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

私は学部4年次に本学主催の「みらい教育セミナー」に参加し、講師の先生からお話を伺ったことをきっかけに援助要請研究会をご紹介いただき、現在では私にとって研究に不可欠な存在となっております。ぜひ学会・研究会・セミナー等の情報収集を行い、研究に関わるネットワークを探しておくことをお勧めいたします。

### 受験生へのメッセージ

一緒にやりたいことを実現してみませんか？

### 1年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限				家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践I		
2限		保健医療分野に関する理論と支援の展開I			心理学研究法：理論と実践I	
3限		福祉分野に関する理論と支援の展開I		教育分野に関する理論と支援の展開I		
4限		福祉分野に関する理論と支援の展開II			心理実践実習IC	現代社会の動向と教育協働I
5限						
6限			教育イノベーション概論			

### 1年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限				家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践II		
2限		保健医療分野に関する理論と支援の展開II		教育分野に関する理論と支援の展開II	心理学研究法：理論と実践II	
3限						
4限					心理実践実習ID	
5限						
6限						

### 1年次 集中講義

司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開、産業・労働分野に関する理論と支援の展開、公認心理師と教師の協働的援助、心の健康教育に関する理論と実践I、心理実践実習IA・IB
---

### 2年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限					課題研究I	
2限						
3限				心理的アセスメントに関する理論と実践I		現代社会の動向と教育協働II
4限				心理的アセスメントに関する理論と実践II	心理実践実習IIC	
5限					心理支援に関する理論と実践	
6限						

### 2年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限					課題研究II	
2限						
3限						
4限					心理実践実習IID	
5限						
6限						

### 2年次 集中講義

心の健康教育に関する理論と実践II、心理実践実習IIA・IIB
---------------------------------

# 国際協働教育 コース

### 養成する人材像

主として、留学生を受け入れ、国境や異文化を越えてグローバルなフィールドで他者と協働しながら活躍できる教育・学習支援人材を養成します。

「日本型教育システム開発領域」と「日本語教育支援高度化領域」の2つの領域を設けます。

コース共通科目として「JSLカリキュラムの理論と実践」、「国際比較文化論」等を開講します。

柏原キャンパス  
昼間開講

募集人員(目安)：20人

### コース代表教員からのメッセージ



石橋 紀俊 教授

様々なルーツをもち価値観を異にする人々が国や地域の隔たりを越えてボーダーレスに協働できる社会、さらには一人も取り残されることなくすべての人が尊重され、努力したことが平等に報われる社会を実現するために教育が重要であることは言うまでもありません。また、AIなどのテクノロジーの劇的な進化を伴いながら到来する未来の社会のなかで、私たち一人ひとりが人間らしく生きるために必要なのも教育です。

国際協働教育コースは、理系教育と日本語教育という分野から、来るべき未来にアプローチしようとするコースです。このコースでは、日本型教育システム以外で日本語を外国語として学んだ留学生と、日本型教育システムで学び日本語を母語とする学部卒の院生とが協働して学びます。その学びを通じて、ルーツや価値観が異なるからこそ相互に理解を深め、互いに尊重することのできる寛容で柔軟な思考力と、今後ますますグローバル化する国際社会で活躍しうる実践力を身につけます。

## 日本型教育システム開発領域

理系科目を中心に日本型教育の特性を理解し、新たな教育モデルを創造し実践できる人材を養成します。

- 特徴**
- 日本型教育と各国・地域の教育を比較して、新たな教育モデルを創造し実践できる資質・能力を育成します。
  - 理系科目を中心とした高度な教育スキルを身に付けます。
  - 日本型教育システムを国際的な視野から深く理解する力を身に付けます。

- 主な開講科目**
- 日本型教育システムにおけるICT活用の方法
  - 日本型教育システムの諸相
  - 日本型教育システム開発実践演習

- 修了後の想定輩出先**
- 教育に関する国際機関、教育行政機関、日本への留学をめざす児童生徒を育てる教育機関、外国にルーツのある児童生徒が在籍する教育機関、理系の教材に関わる企業など



## 日本語教育支援高度化領域

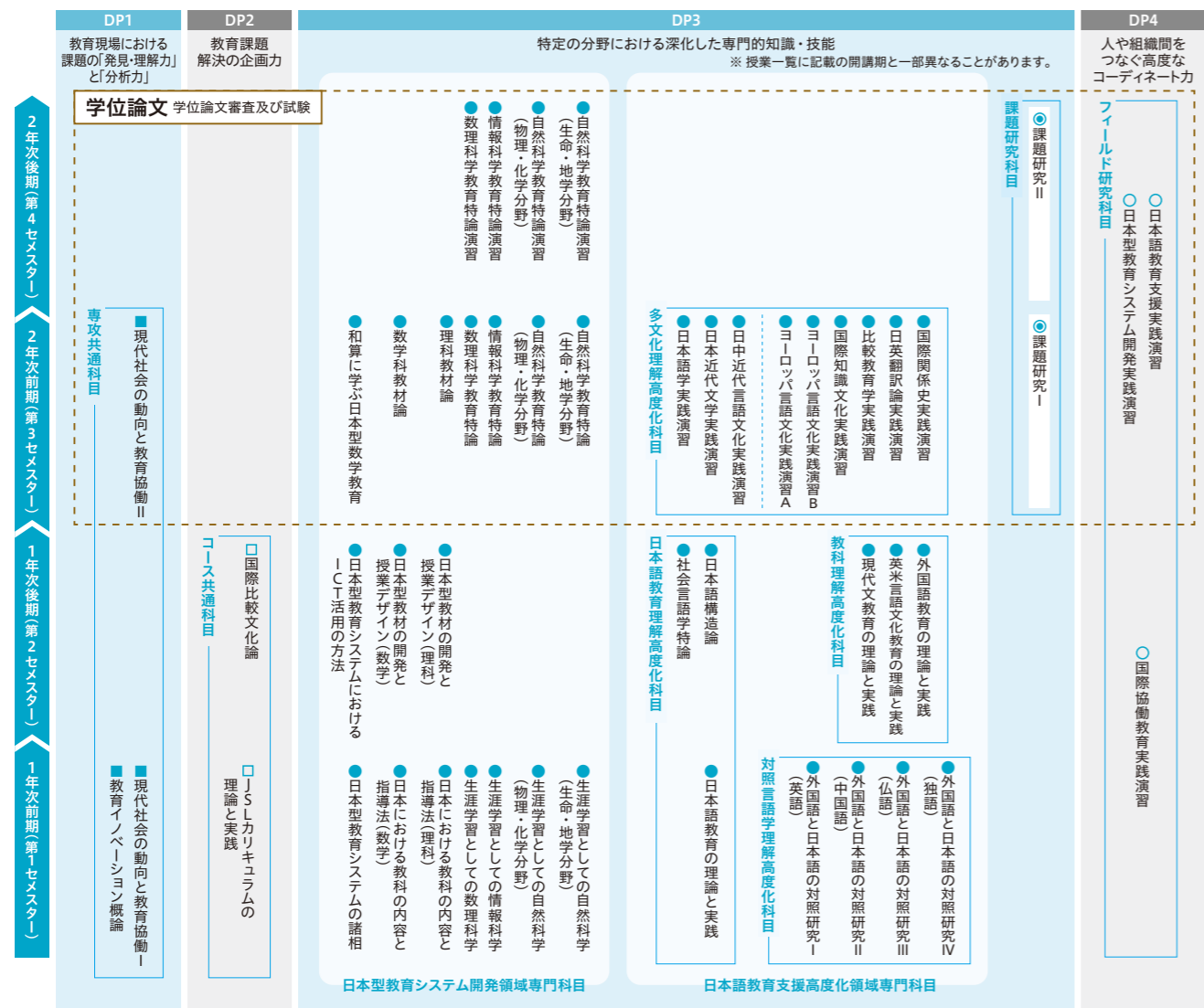
国内外の日本語教育に必要な専門的知識と実践的教育力を養成します。

- 特徴**
- 外国語として日本語を教えるために必要な日本語・日本文化に対する専門的知識と実践的な教育方法を学びます。
  - 母語・母文化と日本語・日本文化を比較し分析できる力を身に付け、国内外の日本語教育の現場に対応可能な実践力を育成します。
  - 日本語を教える高度なスキル、教育方法や教材開発力を身に付けます。

- 主な開講科目**
- 日本語教育の理論と実践
  - 社会言語学特論
  - 外国語と日本語の対照研究
  - 日本語教育支援実践演習

- 修了後の想定輩出先**
- 日本語教育機関、日本語教師養成機関、教育に関わる国際教育機関、教育行政機関・学校現場、日本語教育教材に関わる企業など

令和8年度入学者用カリキュラムツリー | 学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー)



※令和9年度入学者については変更される場合があります。 ■専攻共通科目 □コース共通科目 ●コース専門科目 ○フィールド研究科目 ◎課題研究科目

専任教員・研究分野 (令和8年5月1日現在) ※令和9年3月末までに退職予定

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>日本型教育システム開発領域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乾 陽子 ■生態・環境</li> <li>尾崎 拓郎 ■情報教育学、教育学</li> <li>川越 毅 ■ナノ構造科学、薄膜・表面界面物性、物性II ※</li> <li>喜綿 洋人 ■統計力学、機械学習</li> <li>串田 一雅 ■物理教育研究、科学教育</li> <li>久保埜 公二 ■分析化学、機能物性化学、無機化学</li> <li>小林 元樹 ■系統学、分類学</li> <li>高見 享佑 ■ICT教育・データサイエンス</li> <li>CHEN LI ■教育情報工学</li> <li>仲矢 史雄 ■サイエンスコミュニケーション・動物生理学</li> <li>西川 泰弘 ■地球惑星環境科学</li> </ul> | <p><b>日本語教育支援高度化領域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>赤木 登代 ■ドイツ語圏の文学・文化史、ドイツ女性史</li> <li>石橋 紀俊 ■日本近代文学、日本現代文学</li> <li>井上 直子 ■フランス文学、フランス思想</li> <li>亀井 一 ■独文学 ※</li> <li>櫛引 祐希子 ■日本語学、日本語教育学</li> <li>辻本 桜子 ■日本語教育学、第二言語習得研究</li> </ul> | <p><b>国際協働教育実践領域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平木 彰 ■代数的組合せ論</li> <li>広谷 博史 ■環境農学 ※</li> <li>藤田 真依 ■実解析</li> <li>堀 一繁 ■有機化学、機能物質化学</li> <li>堀 真子 ■地球化学</li> <li>町頭 義朗 ■幾何学</li> <li>三島 和宏 ■情報通信システム</li> <li>望月 久稔 ■知能情報学、情報学基礎理論</li> <li>守本 晃 ■ウェブ解析、ウェブ解析を用いた信号処理</li> <li>山本 良太 ■教育学</li> <li>若杉 祥太 ■情報教育学、教育学、教育方法学</li> </ul> |
|--|---|--|

- |  |
|--|
| <p><b>日本語教育支援高度化領域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中野 知洋 ■各国文学・文学論</li> <li>中山 あおい ■比較教育学、国際教育</li> <li>飛田 麻也香 ■比較教育学</li> <li>藤田 萌々子 ■英語圏文学、現代英米詩</li> <li>Brown Robert Sanborn ■英語学</li> <li>米澤 千昌 ■日本語教育学</li> </ul> |
|--|

## 国際協働教育コース 日本型教育システム開発領域



学部卒業生  
小槻 菜由  
2年次

### 入学を決めたきっかけ

元々教員養成課程だったこともあり、教職大学院と教育学研究科どちらに進むかとても悩みました。そんな中、現在所属している研究室の教授と相談し、この大学院だからこそできる「理論と実践」の理論に焦点をあてた研究に取り組もうと決めました。

### 入試対策

入試科目は数学、英語でした。英語は数学に関係のある内容ではあるので、いかに既存の知識と結び付けられるかが重要だと感じました。紙の辞書は持ち込み可能なので、単語力よりは文章を正確に読み切り伝える力が大切だと思います。数学については学部1回生で学んだ線形代数学と微積分学の内容を復習しました。

### 入学して良かったこと

学科共通科目等で今まで関わったことのない分野の方々に会うことができ、意見交流等では多様な考え方に触れることができました。また、学部のときよりも格段に発表回数が増え、自分の考えを人に伝わりやすくするためにはどうすればいいのかについて考える時間が多くなりました。

### 入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

大学院の授業では、自分の学びたいこと、研究したいこととその授業を関連付けることが大切だと感じました。入学までに自分の研究計画をしっかりと考えておくことで、各授業の内容がより身につくと思います。また、授業内で生成AIやICT活用について取り扱う機会も多いため、事前に触れておいても良いかもしれません。

### 受験生へのメッセージ

最後まで頑張ってください。

#### 1年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限			日本における教科の内容と指導法(数学)			
2限		JSLカリキュラムの理論と実践	ゼミ			
3限	生涯教育としての数理科学					
4限						現代社会の動向と教育協働I
5限						
6限			教育イノベーション概論			

#### 1年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限		日本語教育システムにおけるICT活用の方法			日本型教材の開発と授業デザイン(数学)	
3限						
4限					国際比較文化論	
5限					ゼミ	
6限						

#### 1年次 集中講義

日本型教育システムの諸相、国際協働教育実践演習

#### 2年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						現代社会の動向と教育協働II
4限		数学科教材論				
5限	数学科学教育特論	課題研究I				
6限						

#### 2年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限		和算に学ぶ日本型数学教育				
5限	数学科学教育特論演習	課題研究II				
6限						

#### 2年次 集中講義

日本型教育システム開発実践演習

## 国際協働教育コース 日本語教育支援高度化領域



学部卒業生  
**LIU LAIYI**  
2年次

### 入学を決めたきっかけ

学部で日本語教育を副専攻として学び、実習を通じて初めて学習者から教育者の立場へと転換しました。その中で、自分の知識や指導力の不足を実感し、より専門的に学びたいと考え大学院進学を決めました。本コースは日本語教育を実践的に学べる点に魅力を感じました。

### 入試対策

研究計画書では目的や意義を明確にし、論理的に構成することを意識しました。面接では研究内容を簡潔に説明できるよう練習を重ねました。また、日本語教育の基礎知識を事前に身につけることも重要であり、参考書を活用して理解を深めたことが役立ちました。

### 入学して良かったこと

専門的な知識を体系的に学べるだけでなく、多様な背景を持つ学生と交流できる点です。授業やディスカッションを通じて異なる視点に触れ、自分の考えを深めることができました。また、教員の指導も丁寧で、研究の進め方について具体的な助言をいただけるため、安心して研究に取り組める環境が整っていると感じています。

### 入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

日本語力の向上に加え、日本語教育の基礎知識を身につけておいたことが役立ちました。特に、文法や指導法の基本的な理解に加え、関連分野の論文を多く読む習慣を身につけていたことで、授業内容をより深く理解することができました。また、論文の読み方やアカデミックライティングの基礎を学んでいたことで、研究活動を円滑に進めることができています。

### 受験生へのメッセージ

自分の目標を大切に挑戦してください。

#### 1年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限		JSL カリキュラムの 理論と実践			日本語構造論	
3限						
4限	日本語教育の 理論と実践					現代社会の 動向と 教育協働Ⅰ
5限						
6限			教育 イノベーション 概論			

#### 1年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限				社会言語学 特論		
3限	現代文教育の 理論と実践					
4限	漢文教育の 理論と実践			外国語と日本語の 対照研究Ⅱ (中国語)	国際比較 文化論	
5限						
6限						

#### 1年次 集中講義

国際協働教育実践演習
------------

#### 2年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限	日本近代文学 実践演習					
3限						現代社会の 動向と 教育協働Ⅱ
4限	比較教育学 実践演習					
5限			課題研究Ⅰ			
6限						

#### 2年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						
5限			課題研究Ⅱ			
6限						

#### 2年次 集中講義

日本型教育システム開発実践演習
-----------------

# 教育 ファシリテーション コース

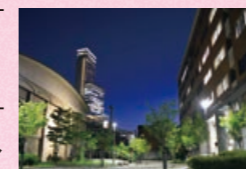
### コースの特徴

主として社会人を受け入れ、自らの知識・技能、経験を他者の知見と組み合わせて、教育現場の最適化に資する実践知を生み出すことができる人材を養成します。

「教育イノベーション開発領域」、「地域教育・芸術支援人材高度化領域」及び「健康・安全教育高度化領域」の3つの領域を設けます。

必修科目として「社会に開かれた教育課程の実践研究」、「学習支援特論」、「プロジェクト演習」を開講します。

### 天王寺キャンパス 夜間・土曜開講



募集人員(目安)：20人

### コース代表教員からの メッセージ



玉井 裕子 教授

教育ファシリテーションコースは、夜間と土曜日に開講している、社会に開かれた学びの場です。ここでは教育工学、地域教育、音楽、美術、健康科学、安全教育、生活環境、スポーツなど、実に多彩な専門性を持つ方々が集い、日夜、知的な探究を深めています。

私たちが大切にしているのは、各領域の専門知に「教育」と「多様な人々との協働」という視点を掛け合わせることで、複雑化する現代の教育課題に向き合い、新時代の学校改革をしなやかに推進できる人材を育てたい。こうした思いを胸に、私たちは教育にあたっています。

「人生100年時代」を迎え、社会人の学び直し(リカレント教育)の意義はかつてないほど高まっています。現場での経験から生まれた切実な問題意識や研究テーマを持つ皆さんと、共に探究を深められることを心から楽しみにしています。また、学部から進学される若い皆さんにとっても、実務経験豊かな社会人院生との対話は、教科書を超えた鮮やかな刺激と、多角的な視点をもたらしてくれるはず。異なる背景を持つ人々が交わり、視野を広げる経験は、何物にも代えがたい財産になるでしょう。

新たな一歩を踏み出す皆様を歓迎いたします。知の探究を深め、教育の未来を共創する共に学び合う者として、歩みを共にできることを願っております。

## 教育イノベーション開発領域

AI、ICT等先端技術を活用し、教育課題を解決に導くことのできる人材を養成します。

- 特徴**
- 今日的な教育現場の動向やニーズを理解し、自らが有する知識・技能、経験と異分野の知見の組み合わせによる協働的、実践的な学びを展開します。
  - 先端技術を自在に駆使し、教育に関するデータを集積・分析しながら、各種教育課題に対して最適な解決策を提示するための知識・技能を身に付けます。

- 主な開講科目**
- 教育ポートフォリオとデータ
  - 人工知能概論
  - 先端技術の教育展開と教育データ分析演習

- 養成する人材像**
- 先端技術分野の企業、教育委員会行政職など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材

## 地域教育・芸術支援人材高度化領域

学校や地域の教育課題の解決に寄与する人材や、音楽や美術の技術や感性を教育分野に生かすことのできる人材を養成します。

- 特徴**
- 地域学校協働や学習支援に関する理論的・実践的探究を通じて、学校や地域の教育課題を解決するための知識・技能を身に付けます。
  - 芸術表現に関する専門性を生かして、教材開発能力や事業企画力など教育現場に参画するための知識・技能を身に付けます。

- 主な開講科目**
- 地域教育とキャリア形成
  - 地域音楽教育支援研究、地域美術教育支援研究
  - ダイバーシティと地域教育

- 養成する人材像**
- 社会教育関係者、社会福祉士、民間教育事業者、芸術家、演奏家、教育や文化振興に関連する団体の職員など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材



## 健康・安全教育高度化領域

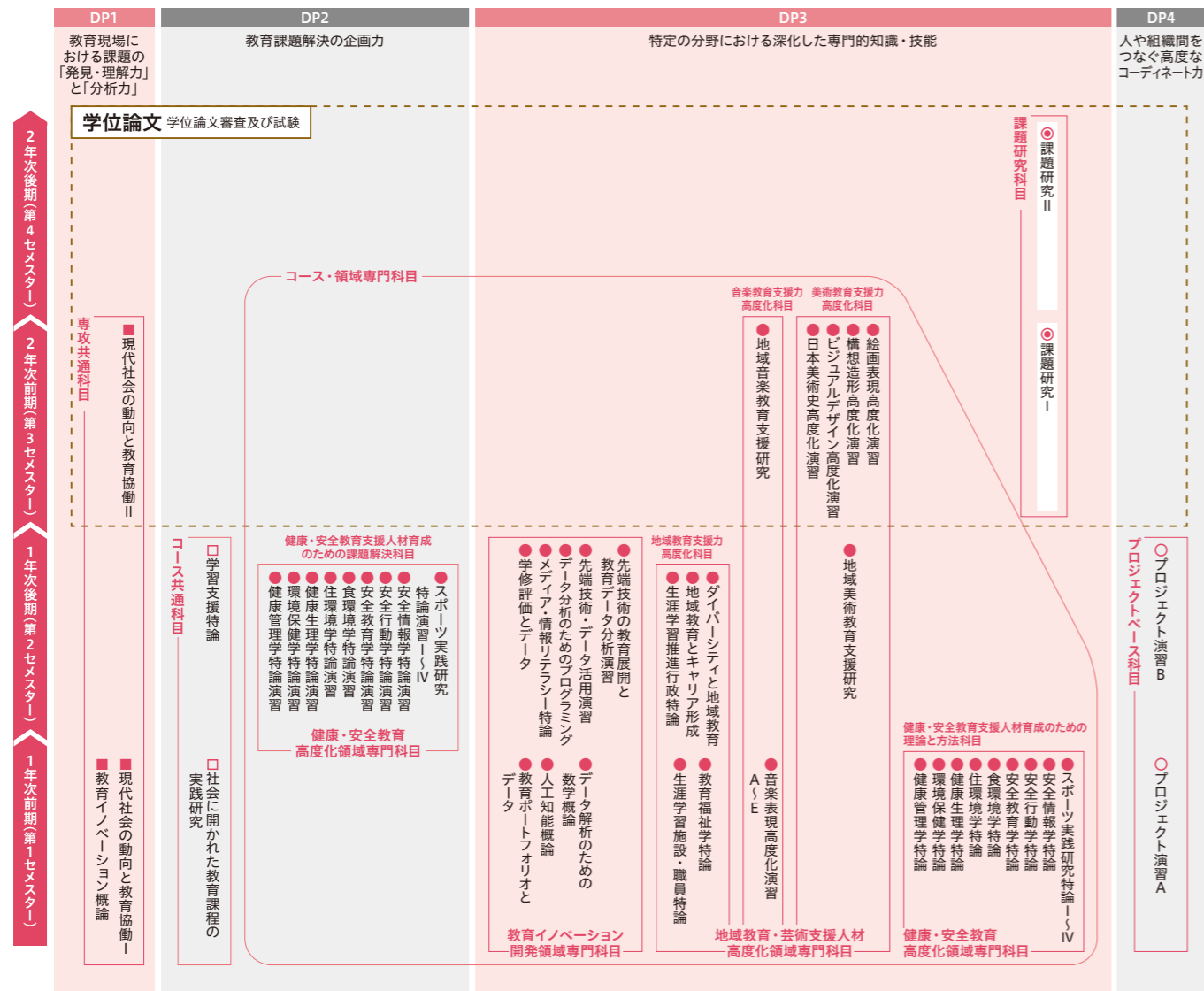
学校・家庭・地域の健康・安全の向上を担える人材やスポーツ実践の課題を解決できる人材を養成します。

- 特徴**
- 医療や保健、スポーツ、学校安全などの健康・安全分野に関する理論的・実践的探究を通じて、教育課題を解決するための知識・技能を身に付けます。
  - 多職種との協働による考察を通じて、健康・安全教育の課題解決に資する授業の企画や運営手法、教材開発手法など実務的な技能を身に付けます。
  - 児童生徒にスポーツの楽しさ、健康・安全な生活を気づかせ、豊かな人間性・社会性を育むことのできる人材を養成します。

- 主な開講科目**
- 健康管理学特論
  - 安全教育学特論
  - 住環境学特論
  - スポーツ実践研究特論Ⅰ

- 養成する人材像**
- 看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職や、アスリート、スポーツ指導者など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材

令和8年度入学者用カリキュラムツリー | 学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー)



※令和9年度入学者については変更される場合があります。

■専攻共通科目 □コース共通科目 ●コース・領域専門科目 ○プロジェクトベース科目 ◎課題研究科目

専任教員・研究分野 (令和8年5月1日現在) ※令和9年3月末までに退職予定

<b>教育イノベーション開発領域</b> 尾崎 拓郎 ■情報教育学、教育学 高見 享佑 ■教育AI、データサイエンス CHEN LI ■教育学、ラーニングアナリティクス 中村 航平 ■ラーニングアナリティクス 納庄 聡 ■情報教育学、教育学	望月 久稔 ■情報情報学、情報学基礎理論 守本 晃 ■ウェブ解析 山本 良太 ■教育学 若杉 祥太 ■情報教育学、教育方法学、教師教育学、社会教育学
<b>地域教育・芸術支援人材高度化領域</b> 江藤 亮 ■ビジュアルデザイン 岡本 麻子 ■器楽(ピアノ) 神代 修 ■器楽(トランペット)、管弦楽、吹奏楽 五明 真 ■立体造形 高嶽 裕樹 ■図書館情報学、図書館の自由 高橋 味央 ■社会福祉学、子ども家庭福祉、教育福祉	玉井 裕子 ■声楽、声楽指導法 ※ 出相 泰裕 ■生涯学習論、社会人学生論、大学開放論 寺島 みどり ■絵画 中務 晴之 ■器楽(フルート)、管弦楽 山畑 誠 ■器楽(ピアノ)
<b>健康・安全教育高度化領域</b> 生田 泰志 ■コーチング学、バイオメカニクス 碓田 智子 ■住生活学、住まいと生活環境、住教育、まちづくり 榎木 泰介 ■運動生理・生化学、応用健康科学 後藤 健介 ■自然災害科学、安全情報学、環境医学 豊沢 純子 ■安全行動学、社会心理学 永井 由美子 ■温熱生理学、衛生学・公衆衛生学 西川 章江 ■食生活学、食物学、食品学、食と生活科学	橋本 恒 ■スポーツ科学 藤田 大輔 ■安全教育学、学校安全 松原 英輝 ■コーチング学 松本 鉄也 ■内科学一般(心身医学含む) ※ 吉田 雅行 ■コーチング学 吉見 英里 ■身体教育学

## 教育ファシリテーションコース 教育イノベーション開発領域



社会人院生  
田中 康平  
2年次

### 入学を決めたきっかけ

2010年から実施された総務省のフューチャースクール推進事業から昨今のGIGAスクール構想まで、1人1台の学習用端末の活用や授業改善をサポートしたり、関係者間のコーディネートを行う中で、様々な課題に直面してきました。その解決のために学術的な研究や分析能力を高めたと考え、入学を決めました。

### 入試対策

小論文試験について過去問を3年分入手し、論述の対策を行いました。研究計画書も評価対象であるため、修士論文として研究したい内容を吟味し、先行研究の調査から研究手法の見通しを整理して、口述試験に備えました。研究課題が広くなりすぎないように焦点化することや、自分の経験を活かした研究計画を心がけました。

### 入学して良かったこと

必修科目ではAIの基盤となる数学的な理論や応用方法を学ぶことができ、その後の生成AIの活用でも役立っています。他の分野の講義でも、教育に関する知見を広げることができたと実感しています。研究対象としている分野(認知負荷、学習分析等)を専門とする指導教官と出会ったことも良かったです。

### 入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

入学前から関心のある分野の研究論文を読んでいたことは、とても役に立っています。英語文献もAIの翻訳で読みやすくなっていますので、国内外の論文に目を通し、研究の構造や過程などの理解を深めたり、文献情報を記録しておくことをお勧めします。

### 受験生へのメッセージ

多様な仲間との出会いも期待してください。

### 1年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						現代社会の動向と教育協働I(隔週開講)、プロジェクト演習A(隔週開講)
5限						
6限		教育ポートフォリオとデータ	教育イノベーション概論	データ解析のための数学概論		
7限		社会に開かれた教育課程の実践研究		人工知能概論		

### 1年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						プロジェクト演習B
5限						
6限	学修評価とデータ	先端技術の教育展開と教育データ分析演習	データ分析のためのプログラミング	ダイバーシティと地域教育	メディア・情報リテラシー特論(隔週開講)	
7限			学習支援特論	先端技術・データ活用演習		

### 2年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						現代社会の動向と教育協働II
4限						
5限						
6限						課題研究I
7限						

### 2年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						課題研究II
7限						

## 教育ファシリテーションコース 地域教育・芸術支援人材高度化領域



学部卒院生  
**小路 桂**  
3年次

### 入学を決めたきっかけ

学部でのピアノの学びを通して、より高度な演奏技術と表現力を身につけたいと考えようになり、指導教員のもとで専攻実技をさらに深く学びたいと感じたため、内部進学を決めました。専門性の向上に加え、学校教育や社会教育にも視野を広げ、自身の音楽観を発展させたいと考えました。また、学外での演奏活動と両立しやすい夜間開講である点にも大きな魅力を感じ、志望しました。

### 入試対策

研究計画書は、事前に先生に相談することでテーマを固めました。小論文は過去問を用い、制限時間内に仕上げる練習を行いました。短時間で文章を書くことが苦手でしたが、構成を考えてから書く方法を実践することで、徐々に書けるようになりました。面接では、院の先輩方に伺った過去の質問内容を参考に対策を行いました。

### 入学して良かったこと

社会人の院生が多く、多様なキャリアを持つ方々の視点に触れることで日々多くの刺激を受けています。一つの授業に対して実践の割合が多く、学んだことをすぐに活かすことができる環境です。発表や発言の機会も多いため、入学当初は苦手意識のあった人前で話すことにも、回数を重ねるうちに自然と慣れていきました。

### 入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

入学前は論文を書く経験がほとんどなく、テーマ設定や資料収集、構成の立て方など基本的な進め方に戸惑いました。現在も試行錯誤を重ねながら取り組んでいますが、さまざまな助言をいただきながら、文献の読み方や論理的な構成への理解を深めています。事前に基礎的な知識に触れておくことの重要性を実感しています。

### 受験生へのメッセージ

在学生や教員に話を聞いてみると参考になります。頑張ってください。

### 1年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						現代社会の動向と教育協働Ⅰ(隔週開講)、プロジェクト演習A(隔週開講)
5限						
6限			教育イノベーション概論			
7限	住環境学特論	社会に開かれた教育課程の実践演習	音楽表現高度化演習B			

### 1年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						プロジェクト演習B
5限						
6限				ダイバーシティと地域教育		
7限	住環境学特論演習		学習支援特論			

### 2年次前期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						現代社会の動向と教育協働Ⅱ
5限						
6限	地域教育実践演習					
7限	音楽表現高度化演習F	課題研究Ⅰ		音楽表現高度化演習C		

### 2年次後期 授業スケジュール

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限						
7限		課題研究Ⅱ				

## 教育ファシリテーションコース 健康・安全教育高度化領域



社会人院生  
**棚窪 弥生**  
2年次

### 入学を決めたきっかけ

高度急性期医療を担う病院で手術看護認定看護師として勤務し、教育や後輩育成に携わる中で、看護師の学びやキャリア形成を支える教育の重要性を強く感じるようになりました。より質の高い教育を現場に還元したいと考え、実践経験を理論的に深められる環境を求めて、教育の神髄を体系的に学べる大教大での学びを選びました。

### 入試対策

入試に向けて、自分が取り組もうとしている研究テーマを明確にするため研究計画書を作成し、関連する文献を検索して要点を整理しました。また、小論文対策として日本の健康政策や自治体の取り組みを調べ、社会的背景への理解を深めました。さらに過去問を閲覧し、出題傾向を把握しながら対策を進めました。

### 入学して良かったこと

看護の枠だけで教育を見ていた自分に気づき、留学生や他分野の仲間、先生方との学びを通して教育の多様性を実感しました。学ぶことは平等に議論するための共通言語であり、相手を理解し合う基盤になると知りました。多様な背景の人が学びやすい授業の工夫を考える視点を得られたことも大きな学びでした。

### 入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

入学前に研究計画書を作成し、関連文献を整理していたことは授業や研究を進めるうえで役立ちました。また、日本の健康政策や自治体の取り組みを調べていたことで専門性を生かして意見を述べられ、グループワークでも力を発揮できました。特に自身の分野の国内外の情報を調べておくことは学びを広げると感じました。

### 受験生へのメッセージ

共に新しい学びを切り開きましょう。

# 説明会／学費・奨学金／ 大学院教育学研究科(修士課程)修了生の進路

## 説明会スケジュール

教員によるコース説明や在学生による学生生活・入試対策を紹介します。オンラインで実施しますので、お気軽に参加ください。

令和8年6月28日(日)

令和8年12月5日(土)

※詳細は大学ウェブページに掲載します。

### 入試日程等

	出願期間	入試日	合格発表
1次募集	令和8年 7月21日(火)～令和8年7月31日(金)	令和8年9月5日(土)	令和8年9月11日(金)
2次募集	令和8年12月24日(木)～令和9年1月5日(火)	令和9年2月7日(日)	令和9年2月12日(金)

## 入学科・授業料

令和8年度入学※1	入学科※2	授業料(年額)
大学院	282,000円	535,800円
大学院(長期履修学生制度の適用者※3)	282,000円	357,200円

※1 上記金額は、令和8年度入学者の金額であり、令和9年度入学者については、変更される場合があります。

※2 入学の際には、入学科のほか、別途入学時諸費用がかかります。

※3 修士課程における3年間履修の場合の長期履修期間の授業料金額です。長期履修期間によって授業料金額が異なります。

## 長期履修学生制度

標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができます。かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を3年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後(在学中)の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。なお、留学等、本制度の申請資格に該当しない事由によるものは認められません。

### 申請資格

申請資格を有する方は、次のいずれかに該当する方です。

- ① 職業を有する方
- ② 育児、介護等の事情を有する方
- ③ その他研究科長が認めた方

### 授業料(年額)

$$\text{大学が定めた授業料年額} \times \text{標準修業年限(2年)} \div \text{最長履修期間(3年)}$$

## 授業料等免除制度

### 一般選考

経済的理由により入学科・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に、選考のうえ、入学科・授業料の全額または半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

## 奨学金制度

学業成績が優秀で、経済的理由により学資の支弁が困難な方には《日本学生支援機構奨学金》または《一般奨学金》の制度があります。一般奨学金には、大きく分けて地方公共団体の奨学金と民間育英団体の奨学金とがあります。

(参考)令和8年度入学者 日本学生支援機構奨学金の貸与月額例

奨学金の種類	
第一種奨学金(無利子)	50,000円・88,000円のいずれかより選択
授業料後払い制度(無利子) 在学中は授業料を納付せず、 修了後の所得に応じて 後払いする制度	授業料相当額(年間535,800円が上限) ※日本学生支援機構から大学に直接支払われます。  生活費奨学金(20,000円・40,000円のいずれかより選択) ※生活費奨学金のみの貸与を受けることはできません。
第二種奨学金(有利子)	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円のいずれかより選択

※上記金額は、令和8年度入学者の金額であり、令和9年度入学者については、変更される可能性があります。

※第一種奨学金(無利子)については、「特に優れた業績による返還免除制度」があります。

## 令和7年度修了生の進路

(人)

区分	教員		企業	公務員	進学	その他	合計
	大阪府内	大阪府外					
心理・教育支援コース	0	0	3	6	0	1	10
国際協働教育コース	1	0	11	0	0	7	19
教育ファシリテーションコース	3	0	7	1	1	2	14
合計	4	0	21	7	1	10	43

大学院教育学研究科(修士課程)について  
よくある質問はコチラ

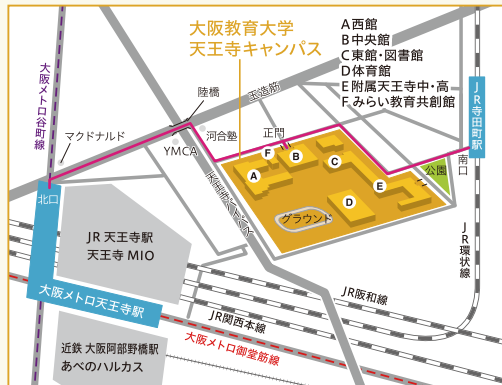
大阪教育大学 研究科 よくある質問



# ACCESS

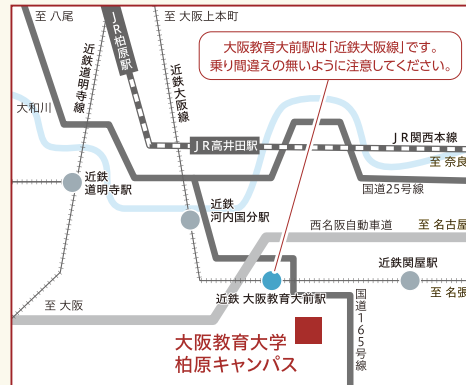


## 天王寺キャンパス



大阪市内中心地 ■ 天王寺駅から約600m  
 ■ 寺田町駅から約350m

## 柏原キャンパス



■ 大阪教育大前駅から徒歩約15分



国立大学法人  
**大阪教育大学**

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

入試情報は  
 こちらから

大阪教育大学 学務部入試課

〒582-8582  
 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1  
 TEL 072-978-3323

